

## 第3章 施策の理念、方針・目標

### (1) 理念

**みんなで創る、自分らしく暮らせるまちヨコハマ**  
～どこでも誰もが安心して暮らせる住環境を目指して～

横浜の住まい・住環境のあるべき姿(この計画で目指す将来像)

| やさしさ<br>があふれるまち   | つながり<br>を感じられるまち   | あんしん<br>して暮らせるまち  |
|---|--|---|
| <p style="text-align: center;"><b>人にやさしい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇誰もが使いやすいバリアフリー化された住宅が増えている。</li> <li>◇高齢者にやさしく子育てしやすい環境が整っている。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>暮らしにやさしい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇機能性・利便性が備わった住まい・住環境が形成されている。</li> <li>◇生活や居住支援が行き届いている。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>環境にやさしい</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇再生可能エネルギーの活用など省エネルギーな住まい・まちづくりが進んでいる。</li> <li>◇環境に配慮した暮らし方が浸透している。</li> </ul> | <p style="text-align: center;"><b>未来につながる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇次世代に住み継がれる良質な住宅ストックが形成されている。</li> <li>◇横浜らしさが引き継がれ、魅力ある住環境が維持・形成されている。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>人と人がつながる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇自助・共助で助け合い一人ひとりが地域とつながっている。</li> <li>◇多世代が集う住まいや地域が形成されている。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>多様な主体につながる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇多様な主体の活動の輪が広がっている。</li> <li>◇多くの拠点がつながり、身近な場所で必要な情報と人がつながっている。</li> </ul> | <p style="text-align: center;"><b>居住のあんしん</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇住宅セーフティネットが充実している。</li> <li>◇災害への備えが十分されている。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>安全であんしんな住環境</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇狭あい道路の拡幅や木造住宅密集市街地の改善が進んでいる。</li> <li>◇建物の耐震化や災害につよいまちづくりが進んでいる。</li> </ul> <p style="text-align: center;"><b>あんしんなコミュニティ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇住み慣れた地域であんしんして住み続けられるコミュニティが形成されている。</li> <li>◇お互いの顔が見え、挨拶や困った時の声かけのできるコミュニティが形成されている。</li> </ul> |

### (2) 方針・目標

住生活に関する複合的な課題に対応するため、「人」・「住まい」・「住宅地・住環境」という3つの視点に基づく7つの目標を掲げ、取組を推進します。

| 視 点                | 目 標 |   |
|--------------------|-----|---|
| 「人」<br>からの視点       | 目標1 | 若年世帯から子育て世帯や高齢者世帯まで、安心して暮らせる住まいの確保や住まい方の実現  |
|                    | 目標2 | 重層的な住宅セーフティネットの構築による住宅確保要配慮者の居住の安定確保        |
| 「住まい」<br>からの視点     | 目標3 | 良質な住宅ストックの形成                                |
|                    | 目標4 | 総合的な空家対策の推進                                 |
|                    | 目標5 | 低炭素社会の実現に向けた環境にやさしい住まいづくり                   |
| 「住宅地・住環境」<br>からの視点 | 目標6 | 災害に強く、安全・安心な住宅と住環境の形成                       |
|                    | 目標7 | 住み慣れた身近な地域で、誰もが安心して暮らし続けられる、持続可能な住宅地・住環境の形成 |

### (3) 計画の実現に向けて

横浜市の住宅施策は、多様化する居住ニーズや地域課題にきめ細かく対応する必要があるため、行政だけでなく、市民や自治会町内会、民間事業者、NPOなど多様な主体が連携しながら、施策の担い手として主体的な役割を果たしていく必要があります。

この計画の理念である「みんなで創る、自分らしく暮らせるまちヨコハマ」を実現し、どこでも誰もが安心して暮らせる住環境を目指すため、多様な主体がそれぞれの役割を果たし、連携・協力して各施策に取り組みます。

#### ① 市民

住宅の所有者や居住者である市民は、住まいを長く大切に使い、ライフスタイルやライフステージに応じた改善を行うなど適切な維持管理を行い、また、環境にも配慮した良質な住宅ストックを将来に継承していくことが求められます。

しかし、核家族化や少子高齢化、共働き世帯、高齢者世帯及び単身世帯の増加などにより、地域等への関心が低い又は無関心層の拡大が課題となっています。

市民一人ひとりが、地域コミュニティを構成する一員であることを自覚し、地域活動に自主的に参加し、住環境の魅力の向上や地域課題の解決に向けて主体的に取り組むことが期待されます。

#### ② 自治会町内会

地域の基礎的な住民組織である自治会町内会は、様々な地域課題を解決する中心的な役割を担うとともに、地域で顔の見える関係を築き、コミュニティの醸成に寄与しています。

しかし、会員の高齢化や自治会町内会への加入率の低下などにより、役員の担い手不足や行事への参加者の減少、活動費不足等が深刻化し、組織の弱体化が進んでいる地域が一部で見られます。

これらの課題を解決し、地域に密着した組織として、地域ニーズを的確に把握し、地域の成り立ちや特性を踏まえ、地元の人材を発掘し活用して、地域のまちづくりに取り組むことが期待されています。

#### ③ 民間事業者

住宅建設や不動産などの住まいに関する事業者は、安全性や機能性、快適性を備えた住宅を供給し、流通させていくことが求められています。また、住宅供給に際して、ニーズや地域特性を踏まえ、周辺環境に配慮した、良好な住環境の形成を図る計画とするなど、地域のまちづくりを担う一員としての役割も期待されます。

介護・福祉事業者は、高齢者や子育て世帯に対して適切なサービスや情報提供を行うとともに、多世代が住み慣れた地域に、安心して暮らし続けられるよう、人材不足やサービスの質のばらつきといった課題を解決しながら、他の分野の主体や行政とも連携を図り、居住に関する支援を行っていくことが期待されます。

民間事業者として長年培ってきたノウハウや情報網を活かした活動・支援が期待されます。

## ④ NPO・専門家・中間支援組織・大学等

地域において、ボランティア活動をはじめとした民間の非営利団体による継続的、自発的な社会貢献活動が活発化し、その重要性が認識されています。

市内には、行政や民間事業者では対応しにくい地域ニーズや課題に対応できる担い手として、まちづくりや不動産、法務、建築、福祉、子育てなど幅広い分野で活躍する、NPOや専門家がいます。専門性を活かしたアドバイザーとしての役割に加えて、地域とともに課題を解決していく、コーディネーターとしての役割を果たすことが求められます。

更に、行政と地域の間にとって様々な活動を支援する中間支援組織による、地域における様々な活動や団体間の連携など、地域活動の自立・継続に向けた支援が期待されています。

また、NPOと行政、民間事業者、大学など多様な担い手が協働した取組が盛んに行われており、住宅政策に関わる住まいやまちづくり、居住支援などの分野で主体となり、協働と連携の輪を広げながら活動の場を広げていくことも期待されます。

## ⑤ UR都市機構・地方住宅供給公社・神奈川県等

UR都市機構、横浜市住宅供給公社及び神奈川県住宅供給公社は、市内に多数の賃貸住宅を有しており、公営住宅を補完するものとして、高齢者や子育て世帯等の住宅確保要配慮者に対する住宅セーフティネットの役割を担っています。

また、介護、医療、福祉、子育て、買い物などの日常生活の支援やコミュニティの再生等の取組を通して、地域課題の解決につなげていくことが期待されています。

神奈川県は、広域的な行政主体として、市町村の枠を超えた広域での対応が必要な施策の展開や新たな施策展開の際のモデル的な取組を、多様な主体と連携しながら、地域の実情に応じて総合的に実施していくことが求められます。

## ⑥ 横浜市

市民の暮らしの充実と居住の安定を確保するため、住宅政策についてのビジョンや計画を定め、横浜らしい魅力ある住まいとまちづくりの実現に向けて主導的な役割を担います。

地域の課題に迅速かつ的確に対応するため、国、県、関係機関、関係部局等との連携を強化し、総合的な施策や支援を実施していきます。

特に、高齢化の進展や厳しい社会経済状況の中、生活困窮者、高齢者、子供を育成する家庭、障害者等で日常生活や住まいに配慮を必要とする方々へ対応するため、住宅施策や福祉、雇用施策等との連携を進めていきます。

また、多様化する市民のニーズに対応していくために、分かりやすい情報提供や市場の誘導等を行うとともに、地域の特性を踏まえたきめ細かな施策展開を行い、担い手となる主体の活動やネットワークづくりを支援する仕組みや体制を整えていきます。